

新しい言葉であるが、決して特別なこと難しいこと
専門家でなければ対応できないことではない。むしろ
家族や支援者と過ごす日常の中に自然と埋め込まれ
ているもので、まずは障害のある人自身の意思(意向
や気持ち)への注意度を高めていくことからスタート
してみるということが大事だということ。

③「意思決定支援」のポイントとは？

重度の障がいのある人であっても一個人として考
えていくこと、必ず「意思」や「意向」あるいは「考
え」や「気持ち」があり、自分で決めることができる
事を大前提にし、その上でどうすれば意思の決定を支
援できるのか・・・と考えていくこと。つまり、本人に
選択できる経験と情報を与えてあげることが大切な
ポイントであるということ。

④育成会を取り巻く現状について

高齢化、老障介護・障老介護・孤立の家庭も顕在化
している中で、自助・共助・公助を基本に地域支援力
を高め、互助機能としての育成会の存在意義を再確認
する必要があるということ。

⑤新たな会員となる世代について

新たな会員の獲得が難しい現状ではあるが、改正障
害者基本法でもインクルーシブ教育が謳われ新たな
展開が求められているため、教育関連への運動を PTA
活動とどのように連携していくのか、PTA 活動から育
成会活動へのつながりをどのように構築していくの
かが大きな課題であるということ。

⑥共生社会の実現に向けての育成会活動

障がいは変えられなくても障壁の除去・克服をして
いくことが大切なことで、そのためには本人活動の展
開の必要性が求められるということ。

以上のような内容でした。

次に、理想的な育成会として浜松市育成会が紹介さ
れました。浜松市育成会では、すべての年齢層が所属
している会となっており。会員としては、①いろい
ろな必要な情報が得られる、②親としての悩みを共有し、
解決のために声を出せる場がある、③願いの実現のた
めに一緒に取組む仲間がいる、という事を育成会に対
して感じられているようでした。

このように会員が感じることができる育成会とし
ての活動形態としては、①本人の年齢別に構成された
部会、②活動目的別に構成された委員会(例:ボラン
ティア育成・地域生活支援・就労支援・相談支援)、
③居住地区ごとの地区会(例:地域自立支援連絡会と
の連携・地域イベントへの参加)の3種の集合体で構
成されているということでした。

地域によってもそれぞれの状況が異なり、同様には
できない部分はあるが、育成会同志色々な関わりを持
つ中で、良いところを真似るということも大事なこと
だとのお話でした。

午前の部の終了後、全日本育成会の吉川理事からフ
ァシリテーターとして、ワークショップの目的とルー
ルについてのお話があり、その後グループごとに昼食
会をはさみ、育成会活動で「良いこと」「負担に感じ
ること」をテーマに親の立場でワークショップが行われ
ました。

その中の意見として、育成会活動で負担に感じるこ
ととしては「会議や催しで時間が取られる」などがあ
りましたが、良いこととしては「最新の情報が得られ
る」、「親としての立場を共有できる仲間がいる」、「一
人ではないという安心感がある」、「悩みを打ち明けら
れる」など多数の意見がありました。

セミナーの締めくくり、全日本育成会の田中常務
理事から「これからの育成会活動について」をテーマ
に制度改革の現状などについての解説が行われまし
た。



今回のこのセミナーに参加された方は地元の岡山
を始め、西日本の広くから参加があり、午後のワー
クショップでは、積極的に体験談や想いを話し合い、日
頃、地元では話しにくい内容を参加者それぞれが打ち
明けられ、良い面として挙げられた内容については、
育成会の設立以来60年を経過しても不変なもの
と感じました。大阪市育成会でもこの良さをもっと伸ば
し、「手をつなぐ」育成会となれるように色々な課題
を感じ、改めて育成会の役割について学んだ一日でし
た。

会員向け学習会に参加して

難波特別支援学校 長谷川 美智代

2月21日(木)の勉強会は、大阪手をつなぐ育
成会、理事・事務局長の小尾隆一氏をお迎えし、「障害